

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第123号 (2023. 6. 25-2023. 7. 2)

- ◆ 参加者：しまねこくん、宮坂愛哲、たろりずむ、ダリア220、藤井章、小沢史、何となく短歌、太代祐一、susya、涼閑、凧ちひろ、似鳥、西脇祥貴、花野玖、ひろま、元さん、ぱさ、西沢葉火、水の眠り、鴨川ねぎ、片羽 aju、雲雀、とんぼこーる、Tatsuo Kanase、石川聡、蔭一郎、菊池洋勝、En'sen、流天、はゆき咲くら、佐竹紫円、輪井ゆう、ちゆけ、彩緒、萩原アオイ、東ころろ、雷らい、思雨(スイ)、温(ぬ)、しろうも、奥、かすみ、石原とつき、モリマサ公、短歌初心者、あをみさき、黒穂2022、宮原凱、黒穂十、Tomoko、睦月ヨシ、おかもとかも、8のゆく宛のない独り言、岡村知昭、みさきゆう、森砂季、Born Slippy(モンモン)、とし、とびら、むすみんママ、まつりべきん、上峰子、千春、鷺沼くぬぎ、さー、Boa、雪夜替星、うたたね凜、岩瀬百、こたろう、えみ、ツマモヨコ、カゲキ・ちゃげぞう、かのん、抹茶金魚、あさのつき、まきあき、新出既出20、白石水、ピし、虫追薫、月波与生(七八名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

- 臍口に残る感触アイスティー ダリア 220
梅雨冷に一万バレルの世迷言 岩瀬百
夏なんてポンジスキーム二人乗り ツマモヨコ
うたかたの和服を脱いだ白兔 千春
梅雨晴れ間ギャルの半生盗み聞く しろうも
ブラウザの戻るボタンに八百比丘尼 まつりべきん
地下道に暗がりなくてさみだるゝ 花野玖
スクラムの足を数へてみてごらん たろりずむ
家主には知らせずに飼ふ冷蔵庫 しまねこくん
地味だけどグラジオオラスな性技持つ ダリア 220

Nothing, s gonna change my worldを切り裂くことが晴天
だ 藤井草

眠れない生理の夜に鯨鳴く モリマサ公

日曜が嫌い明日は月曜日 宮坂愛哲

膝を買うならバーコード決済で 小沢史

花々のひらくちからが避難する 太代祐一

蚊遣火やけむり見る目は二つだけ syusyu

どの花も予定調和を生き朽ちる 涼閑

セーブする勇気がなくて眠れない 似鳥

離散以来涙は課税対象だ 西脇祥貴

短夜のネオンの端のくすみかな ひうま

油彩一号ミドリムシ 西沢葉火

方舟に乗り損ねたか三葉虫 鴨川ねぎ

きみは蓮、わたしは牡丹、生き還れ 片羽雲雀

若竹の打掛纏ふ写真有り とるぼとる

真逆だなあピンポンパンで日が沈む Tatsuo Kanase

らあめんのなるとのなかのとつても「の」 石川聡

噴水の右と左で舞う夫婦 蔭一郎

面倒見の良い班長や燕の子 菊池洋勝

ユーラシアプレートに盛る温野菜 Ryu_sen

捨てられた窯場にのこる土の夢 流天

真夜中に流す涙の涼しさよ 佐竹紫円

梅雨空にうつろな口を開けた甕 輪井ゆう

お元気でいらっしやれよとB5電卓立ち ちゆけ(彩緒

あじさいを向日葵に換え夏の恋 東こころ

あった面倒がまともらない日記 雷

快い酔いに水差すしゃっくり煩わし 思雨

思いたい人は思えよ青時雨 あをみさき

静止画像の爆音というキメラ 黒穂 2022

没句にも私らしさをマーケティング 睦月ヨシ

窓ガラス散歩へ二人羽織だけ おかもとかも

回復を祈るゴマアザラシへ電 岡村知昭

学校に研ぎ澄まされた牛がいる 森砂季

所詮人はナメクジウオだったんだもの むくみんママ

雨乞いを静かに鰓を開きつつ 上峰子

涙にはBGMを虎が雨 鷺沼くぬぎ

灼熱のエスカレーター最後尾 さー

百年後旅を許さじ熱帯夜 雪夜彗星

さくらんぼの種で「し」を書くテレワの朝 うたたね凜

くちなしや今は聞こえぬ祖父の歌 こたろう

セルモーター 涙声消し 火を入れる カゲキ・ちゃげぞ

う

寶石を いざ独り占め さくらんぼ かのん

牝山羊の蹴りで屋根が跳ぶ五分前 抹茶金魚

半夏生足を失う蛸喰らう あさのつき

ボルシチにトマトを入れぬ時もある ミヤギのま

駄菓子屋の花火にもあるポルトガル 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

休むよう周りに言われるくらいには疲れた顔で生きてるら

しい 何となく短歌

販売の広告よりも買取の広告多きバイクとピアノ たろり

ずむ

「死にたい」がたくさん届く夜だからちよつとくらいは

夢見させてよ とびら

傷ついたのはふたりのち雨になり下唇の皮が捲れる みさ

きゆう

ビニールの傘と言う名の温室で私はまるで熱帯植物 奥

かすみ

楽しみなことを作ってカレンダーに書いて給水ポイントみたい 凧ちひろ

雨の街シチュエーションが哀しげに孤独な距離が瞳に映る 元さん

何時見テモ月ノ隠ル、街ノ中出逢フ人サへ最早居ナクテ ばさ

思い出はきつと濾過されのこるもの 綺羅星だけをむねにとどめて 水の眠り

お砂糖が敷き詰められた時間帯すれ違ふ会話も溶けてゆく はゆき咲くら

しあわせなふりをしていた6月のさいごの日にさす目薬しみる 萩原アオイ

「結局、南極はお祭りね。甘いものないかしら」ー内田百閒「冥途の奥へ」より 石原とつき

傷ついた心の痛み受け入れた君に出会った証の傷の 短歌 初心者

誘惑は上にも下にも有りそうな太陽系の外の段落 宮原 凱

宇宙からしか見えないよユーラシアどこにでも行く誰にでも会う 黒穂+

高校の先生にはなれんかったけど お母さんにはなれたからいいや Tomoko

二人で食べていたものをひとり黙って食べてる 30のゆく宛のない独り言

もう恋はしないだろうと恒例のアンケートは囚人のよう となるぼーる

残ってる愛のピースを集めても結果の分かるシユレディン ガーで アルト

七夕に出逢う二人に 想いはせ短冊に書く 未来の自分とし

眠れずに何か求めて画面の向こう見知らぬ誰かに思い馳せて
て 月色萌果

ねえ鳥 今から誰かの人生の深くに入っていくのこわいな
えみ

◆詩

綺麗ね。

たくさん咲いてくれてありがとう。

キミ色の

花が天に向かって満開だ♪

↓泣かないで↓

と花が言ってくれているようだ。(温くミ)

◆作品評から

探偵の尾行に気づくかたつむり 蔭一郎

ジレンマのままに徘徊かたつむり あをみさき

くかたつむりの2句。探偵句は川柳の文法でしっかりと書いていて、ジレンマ句は徘徊の説明になっている(擬人法)のが惜しい。(月波与生)

friendの最後にsを消した跡 たろりずむ

く「最後に」がfriendsという言葉の最後、関係の最後の両方に効いている。思い付きから何度も検討(推敲)を重ねたのだろうと思わせる。(月波与生)

ブラウザの戻るボタンに八百比丘尼 まつりぺきん

く好きです。(新出既出20)

窓ガラス散歩へ二人羽織だけ おかもとかも

～最初の読みは、上五の窓ガラス(主題)が散歩へ行く、しかも、二人羽織で。もう一つの読みは、窓ガラス散歩という行為へ、主体が二人羽織で。いずれにせよ、「だけ」。詩的な流れが二人羽織あたりから怪しくなり、自慢げな「だけ」でとどめ。最高です。(まつり。きん)

ゴミ箱にブロックされているらしい 西沢葉火

～最近句会に来ないアカウントを訪ねてみるとブロックされてたりするので最近訪問しないようにしています。ブロックした人の仕合せを祈るばかり。(月波与生)

独りで乳首揉む蛇の脱け殻 ダリア 220

～「蛇の脱け殻」は私でありあなたなのだろうけどその前に「独りで乳首揉む」と書くには勇氣がある。男であり女であれ。(月波与生)

雨乞いを静かに鰓を開きつつ 上峰子

～白石ポピーと申します。不思議で不穏な妖しさがある句ですね★他にも何句か拝読しましたが、すごく素敵でした。(白石ポピー)

歯にしみるアイスにあえて挑む時大人は何かと戦っている奥かすみ

～日々ぼーっとしているようで大人は(タコも)何かと戦っているのだ。歯医者さんに行こう。(月波与生)

青パイヤだろう夏至に形をあたえれば 石川聡

～元は写真付きの句ですが写真がない方が面白く読める。「青パイヤが」動きそうに動かずうまきはまっている。(月波与生)

夏なんてポンジスキーム二人乗り ツマモヨコ

↳ 「ポンジスキーム」なんていうタームが短詩のなかで
活きることにくらくらくる。そうか夏はポンジスキームだ
ったのか。(虫追篤)

離散以来涙は課税対象だ 西脇祥貴

↳ 離散↓ディアスポラ。涙↓嘆きの壁。課税対象↓ユダ
ヤ商法、ベニスの商人。なんかのイメージが来ました。国
が無くなるとすればZERO感MAX。(石川聡)